

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [ 事後評価 ]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	02	0406	商店街活性化事業

事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	--------------------------------	-------------------------------	-----------------

《事業目的》  
商店街への誘客

《事業開始の背景》  
地域のコミュニケーションを推進し、賑わいと潤いのある活性化した街づくりを推進するために実施している。

《事業概要》  
○中心商店街顔づくり事業  
地域住民や関係団体が取り組む事業に対する支援  
○市街地活性化対策  
商店街組合等が行うイベントに対する支援

市民参画の有無 [ 対象外 ]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(見込)	26年度(計画)
① 商店街活性化イベント来街者数 (主催者発表数値)	人	目標	90,000	90,000	90,000
		実績	91,000	86,000	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当係長	(内線)
しごと	商工観光部	商工労政課	伊藤直樹	389

事業費	25年度	当初(現計)	補正	25年度	26年度
事業費	11,343				
財源内訳	国県支出金				
	地方債	4,000			
	その他	100			
	一般財源	7,243			

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

① 中心商店街顔づくり交付金 7,739 千円  
中心商店街の賑わいづくりを促進するとともに自主的なまちづくりを促進するために地域住民や関係団体に取り組む事業に対し、支援を行う。

地域	顔づくりのテーマ	事業実施主体
花巻	花とイベントいっぱいの商店街	花巻中央地区振興協議会、上町商店街振興組合、大町商店街振興組合
天道	宿場浪漫のまち おおはさま	天道地域中心商店街顔づくり委員会
石鳥谷	南部杜氏の里	石鳥谷中央通り商店街振興会
東和	アートのまち365	土沢商店街商店会振興会

② 商店街便益施設管理事業補助金 550 千円  
中心商店街への来街者への利便性向上のため、上町駐車場内に設置しているトイレを公共的に活用する。  
市内公衆トイレの管理運営費経費を参考に算出。

③ 商店街活性化イベント事業補助金 3,054 千円  
商店街組合等が行うイベントに対し、補助対象経費の30%、500千円を上限に補助する。  
同一年度に2イベント以上を行う場合には1,000千円が上限

(単位：千円)

団体名	事業内容	補助額
①花巻市商店街振興組合協議会	どでびっくり市	500
②上町商店街振興組合	花巻夏まつり	500
③大町商店街振興組合	童児稲荷宵宮	71
	花巻夏まつり	500
④吹張商店街振興組合	金毘羅宵宮祭セール	143
⑤花巻駅前商業協同組合	なはん市	174
	銀河の星まつり	473
⑥一日市商店街振興組合	ひといち朝市	150
	一日市宵宮サマーフェスティバル	183
⑦末広町商店街振興組合	末広町クリスマスイベント	申請せず
⑧はなまきカード協同組合	もっすの夏秋楽しみ	144
	もっす秋冬お楽しみ	216
⑨花巻空港駅前商工振興会	にまいはし夕市	休止
計 8団体 11イベント		3,054

平成25年度 事務事業マネジメントシート [ 事後評価 ]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	07	01	02	0406	商店街活性化事業

総合計画	政策	地域資源の連携強化で産業振興のまちづくり	施策	賑わいのある商店街の再生
	1		1-4	
目的	商店街への誘客			
対象	市内の商店街組合等			
意図	事業者が創意工夫を凝らしながら、各種事業を実施することで商店街への誘客が図られる。			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

○中心商店街顔づくり事業  
地域住民や関係団体が取り組む事業に対する支援

○市街地活性化対策  
商店街組合等が行うイベントに対する支援

市民参画の有無 [ 対象外 ]

市民協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催	<input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会	<input type="checkbox"/> 事業協力・協定
	<input type="checkbox"/> 後援・協賛	<input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成	<input type="checkbox"/> 委託

活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① イベント補助金交付団体数	件	計画	10	9	8
		実績	8	7	
② 顔づくり交付金交付団体件数	件	計画	4	4	4
		実績	4	4	
③		計画			
		実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 商店街活性化イベント来街者数 (主催者発表数値)	人	目標	90,000	90,000	90,000
		実績	91,000	86,000	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

要因分析	達成度 <input type="checkbox"/> 目標値より高い <input checked="" type="checkbox"/> 概ね目標値どおり <input type="checkbox"/> 目標値より低い
加盟店舗縮小や、郊外大型店進出、インターネット販売などの攻勢により商店街をとりまく状況が厳しく、H25は末広町クリスマスイベントが縮小（補助申請なし）となった分が減少している。H26.4にイベント補助金要綱を改正し、イベント補助率を30/100から50/100に上げたことにより、休止中イベントの復活なども期待したい。	

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

イベント補助金について補助率改正の要望があり、H26.4改正済み。  
顔づくり事業については地元からの継続要望がある（大迫）。

目的妥当性	公共関与の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	まちの意思を代表する団体である商店街の組織力低下は喫緊の課題。組織力強化、事業の活発な運営を支援することが施策の目的である。 顔づくり事業は、市と商店街組織等が連携し取り組む事業と位置付けられている。
有効性	成果の向上余地 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	店舗の減少、来街者の減少傾向にあつて、来街者数を大きく増加させることは相当困難であり、現状維持が目標。そのなかでイベントに限らず商店街のあり方を考えていかなければならない。
効率性	事業費・人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	従来制度（補助率30/100）のもとでイベントからの撤退が出始めていたことから歯止めをかけるために補助率を改正した。補助率削減はそのまま施策の効果の低下につながる。
公平性	受益と負担の適正化余地 <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	イベント補助金は、相応の自己負担（50%）があること、商店街等の組織であれば申請可能であり、受益機会は公平である。 顔づくり事業は、市として市内4団体を指定のうえ実施している。

《総合評価》…上記評価結果の総括

イベント補助、顔づくり事業とも、実施主体となる商店街組織等をとりまく環境変化により、事業実施場所となる商店街そのものの魅力低下が否めない。  
商店街組織の衰退は、まちの活力低下に直結することから、当面、商店街等の活動基盤を維持することが必要である。